

○ 7月牛マルキン、交雑種・乳用種で6.1万・3.6万円の概算払い発動

農畜産業振興機構は15日、17年7月の肉用牛肥育経営安定特別対策事業(牛マルキン)の補てん金単価(概算払い)について、交雑種と乳用種でそれぞれ6万700円、3万6,100円の概算払いが発動することを発表した。肉専用種は全国ベースでの発動はないものの、地域算定10県のうち熊本県で2,300円、大分県で8,300円の概算払いを予定している。

7月の肉専用種の枝肉価格(1kg当たり、税抜き)は前月比14円高の2,422円(前年同月比3.8%安)、交雑種は同3円高の1,328円、(同13.1%安)。そして、乳用種は同5円安の980円(同3.6%安)と1千円台を下回り、交雑種を

中心にいずれも前年同月の価格を下回った。

これに対してもと畜費は肉専用種が68万8,800円(前年同月比18.1%高)、交雑種36万9,758円(同11.4%高)、乳用種20万2,656円(同15.5%高)と前年同月に対して2ケタ台の高値、とくに肉専用種は2割高に近い水準となっている。この結果、粗収益と生産コストの差額は、肉専用種で9万5,289円(同59.3%安)となったものの、交雑種がマイナス8万885円(前年はプラス1万5,137円)、乳用種はマイナス5万144円(同マイナス2万2,358円)と、肉専用種で半減となり、乳用種は赤字がさらに悪化した。

△2017年7月分の算定結果と補てん金額

(単位:円/頭)

	肉専用種		交雑種		乳用種	
	7月分	6月分	7月分	6月分	7月分	6月分
平均粗収益(A)	1,238,010	1,221,280	673,808	673,624	439,505	442,710
平均生産費(B)	1,142,721	1,123,210	754,693	744,489	489,649	491,999
差額(C)=(A)-(B)	95,289	98,070	▲80,885	▲70,865	▲50,144	▲49,289
暫定補てん金単価(D)=(C)×0.8	-	-	64,700	-	40,100	-
概算払(D)-4000	-	-	60,700	-	36,100	-
確定値(C)×0.8	-	-	-	56,600	-	39,400

※配合飼料価格安定制度の補てん金単価の算定方法変更に伴い、四半期の最終月以外は概算払を行う。

※概算払は、当該四半期の配合飼料価格安定制度補てん金がないと仮定した額(暫定補てん金単価)から4,000円を控除した額。

※2014年4月分から、消費税抜きで算定。

○ スターゼン 10月1日付人事異動

スターゼンは15日、10月1日付人事異動を発表した。[10月1日付]▽スターゼン販売網出向専務取締役九州統括部長(同常務取締役九州統括部長)山本一夫。

○ 宮城全共で海外招へい者向けに和牛の魅力PR—日本畜産物輸出促進協

日本畜産物輸出促進協議会は7日から11日まで仙台市内で開かれた「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」に参加し、海外の招へい者に日本産和牛のプロモーションを行った。

協議会は8～10日の3日間、イベント会場(夢メッセみやぎ)で4小間を使って台湾、香港、スイス、UAE、イギリス、オランダの食肉事業者や米国のメディア関係に向けて、和牛の正しい知識(飼養状況、和牛の特徴、子牛登記、トレサビ、格付け制度など)や美味しさの説明、和牛統一マークの正しい使用に関する講演を行った。また、ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役によるカット・料理実演、国内生産者や食肉事業者など専門家を交えた意見交換会が開かれた。

このうち、植村氏の実演では、植村氏がコースを示しながら格付制度や日本産和牛の特長、美味しさの秘密、和牛脂の特長を紹介。さらに、ランプを使用しイチボ、ランボソとランの特徴を示し、実際にカットしながら薄切りや調理方法を解説した。

その後の意見交換会では、参加者から飼養管理手法、生青草を与えない理由、長期肥育の理由、他国産の和牛と日本産和牛の比較と違いなどについて、多くの質問が挙がった。イベント後、植村氏は「招へい者の和牛に取り組む熱意を強く感じた。そして、台湾の参加者からは、和牛解禁の期待や和牛肉に対する熱い取り組み姿勢を感じた」とコメントしている。